

外国語教育メディア学会（LE T）関西支部中学高校授業研究部会・  
京都教育大学英語の教え方研究会 主催

## 2019年度 6月例会のご案内

日 時： 2019年 6月 9日（日）13：30～17：00

会 場： 京都教育大学 CALL教室（1号館B棟4階）  
（アクセスは<http://www.kyokyo-u.ac.jp/>から）

参加費： LE T会員・・・・・・・・・・・・・・・・・・無 料  
京都外国語大学より良い英語教育を考える会会員・・・・300円  
学生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・200円  
一般・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・500円

問い合わせ先： 西本有逸（京都教育大学） yuitsu@kyokyo-u.ac.jp  
鈴木寿一（桃山学院教育大学） juichisuzuki0011@gmail.com

13：10～ 受付  
13：30 開会（途中、休憩あり）

### 学校英語教育を相対化して見えてくること

京都教育大学 西本有逸

学校英語教育の意義や役割を明らかにするためには、逆説的にそれ自身を相対的に捉え直すことが大切であると考えます。次のことを試みたいと思います。

- 1) 小学校3年生から高校3年生までのおよその授業時間数を試算します。
- 2) インプットとアウトプットの量は十分でしょうか。
- 3) 動機づけの始源となり得るペレジヴァーニエを学校英語に求めることはできるでしょうか。ペレジヴァーニエ（perezhivanie）とは、最近の人間科学で脚光を浴び始めた概念です。心的体験・情動的体験・lived experience・live through ...という訳語・イメージがあります。
- 4) 何が見えてくるでしょうか。

### 休憩

### 学校教育の外側から見た小中高生の英語の学びの内実：自宅塾20年の実践から

大阪大学大学院 泉谷律子

発表者は中学校の英語授業の談話を分析する研究者であり、大学でも英語教育に携わっているが、その出発点は英語教育の専門分野ではなかった。高校留学や企業人として英語を実践的に使ってきた経験から小学生に英語を教える機会に恵まれ、そのまま20年間近く自宅で英語教授を手探りで続けてきた。その実践の独自性は一人一人の学習者の小学校、中学校、高校の英語の長い学びにつき合い続けてきたことにある。

本発表の目的は、そのような実践から得たささやかな示唆、すなわち学校教育の外側から見た学習者の長年の学びの一側面を共有することである。本発表では、はじめに英語を実践的に使ってきた経験からのピリ

ープについて述べ、どのような形態で指導してきたのか年齢に応じた様々な指導方法を紹介し、学習者である子どもたちの特徴、そして実践を反省とともに振り返り、結論を述べる。

17:00 閉会

今後の予定（諸般の事情で変更される場合があります）

10月13日（日）例会（京都教育大学）

12月8日（日）例会（京都教育大学）

3月20日（金）・21日（土）第26回中学高校教員のための英語教育セミナー

（キャンパスプラザ京都）